

# 人権・平和部会

## I. 研究概要

### 1. 研究課題

「共に生き、平和な社会を創り上げる力を育む教育はどうあるべきか」

### 2. 研究内容

(1) どのように平和教育を位置付け、実践していくのか

#### 【研究内容①】

教科における  
平和教育の実践と教  
育課程への位置付け

#### 【研究内容②】

教科外における  
平和教育の実践と教  
育課程への位置付け

#### 【研究内容③】

平和教育の情勢の分析と今日的な課題

(2) どのように人権・共生教育を位置付け、実践していくのか

#### 【研究内容④】

民族・人権・共生教育の実践と  
今日的な課題

- ・アイヌ民族 ・人権教育
- ・男女共同参画 ・子どもの権利条約
- ・バリアフリー ・インクルージョン
- ・ノーマライゼーション ・福祉
- ・少数民族 ・労働者の人権
- ・しょうがい者の人権 ・LGBT
- ・主権者教育

### 3. 研究方法

#### (1) 交流計画

部会員ここで実践を積み、研究協議会当日は全体会でのレポート交流と分科会討議（各部会員の実践レポートの交流）

#### (2) 分科会構成

管内1ブロックで研究内容に沿って分科会を構成し、研究成果の交流を行う。（会場：石狩教育研修センター）

## II.

## 実践研究の経過と成果

### 1. 実践研究の経過

#### (1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 7日 部会役員研修会  
・・・今年度の方向性についての確認
- 5月23日 部会役員研修会  
・・・課題部会研究協議会に向けての準備  
実技研修会の計画と具体的準備
- 6月 部会情報発行  
・・・課題部会研究協議会に向けて・実技研修会の案内
- 8月 1日 理論研修会  
・・・「はだしのゲンのつくりかた2」  
講師：江別市立野幌小学校 阿部教諭  
場所：石狩教育研修センター 研修室A
- 8月19日 拡大役員研修会  
・・・研究協議会開催について・討議の柱の確認・分科会の進め方
- 9月 3日 管内研究協議会  
・・・全体会・研修会報告・レポート発表を主とした交流  
部会役員研修会  
・・・研究協議会の反省
- 10月15日 部会役員研修会  
・・・今年度の研究のまとめと次年度に向けて

#### (2) 部会役員研修会での研究成果

- ・研究課題の明確化
- ・理論・実技研修会の持ち方、内容の検討
- ・研究協議会に向けての方向性の意思統一、討議の柱の確認、分科会の進め方

### 2. 課題部会研究協議会での交流

研究協議会では、全体会での研修会報告、分科会で個人レポートの交流を行う。実践交流のほか、情報交流、学習など幅広い内容で交流を行う。

#### (1) 課題部会研究協議会での協議内容

##### 討議の柱1

どのように平和教育を位置付け、実践していくのか

#### (1) 実践の紹介

- ① 小学校での実践
- ・平和都市宣言に関わる取組
  - ・学芸発表会の劇を通しての学習
  - ・平和を考える全校集会の実施
  - ・道徳の時間での取組
  - ・図書館司書との連携による展示
  - ・社会科での調べ学習を通して
  - ・保護者による読み聞かせ
  - ・国語の教材を通しての平和学習



## 討議の柱2

どのように人権・共生教育を位置づけ、実践していくのか

### ② 中学校での実践

- ・全校道徳を活用した平和教育
- ・新聞記事を活用しての実践
- ・教科(国語・社会・英語)における実践
- ・旅行的行事での訪問・見学を通して
- ・司書教諭との連携
- ・戦争体験者の講話



### (2) 討議の内容

- ① 教師の考えを押しつけるのではなく様々な情報を提供した上で子どもたち自身に判断させることが大切。
- ② 発達段階に応じて伝え、積み重ねていくことが大切である。
- ③ 様々な歴史に触れることが子どもの未来につながる。
- ④ 教育課程に位置付けて実践を継続していく。
- ⑤ 学校全体での理解と取組が必要。各教科の中で位置付けを意識して取り組むことが大切。
- ⑥ 戦争体験者の言葉には重みがあり、子どもたちの心に響く。
- ⑦ 他校の実践を参考にするなど、実践の資料を積み重ねていく。
- ⑧ 資料館等との連携
- ⑨ 授業参観で平和教育に取り組む、保護者の協力を得ることも大切。  
(読み聞かせなど)



### (1) 実践の紹介

- ① 小学校での実践
  - ・教科を通した人権・共生教育の学習
  - ・いじめについて考える全校集会
  - ・学芸発表会の取組を通した人権教育
- ② 中学校での実践
  - ・道徳における人権教育
  - ・特別支援学級での交流、体験活動について
  - ・社会科において人権問題を取り上げた取組
  - ・LGBT への理解と対応について



### (2) 討議の内容

- ① 人権・共生について、歴史的事実を伝えながらも、現在を生きる子どもたちの発達段階を考え指導していく必要がある。
- ② 人権・共生については日常様々な場面に結びついているので、教師がアンテナを張って取り上げることが重要。



### Ⅲ. 講演会（実技研修会）

#### 1. 講演会（実技研修会）の内容

##### （1）目的

今日的な課題に関わる研修会を実施することにより、様々な教育課題に適切に対応できる能力の向上を図る。本研修は、戦争劇を子どもたちと一緒に作ることを通して人権教育・平和教育を実践するための視点を養うことを目的とする。

##### （2）研修会テーマ 「はだしのゲンのつくりかた2」

##### （3）開催期日 2019年 8月 1日（木）

##### （4）講師 江別市立野幌小学校 阿部教諭

##### （5）会場 石狩教育研修センター 研修室A

##### （6）概要

###### ① 白石郷土資料室の展示見学

阿部氏のお父様が自宅に作られた「白石郷土資料室」に展示されていた、戦争にまつわる貴重な資料を見せていただいた。戦時中の教科書や寄せ書き入りの日章旗、千人針、軍帽、焼夷弾など、なかなか目にするのできない貴重なものばかりだった。

###### ② 阿部氏による講話

日の平和教育を取り巻く情勢、戦争劇を指導する意義、阿部氏がこれまで実践してきた劇指導の実際についてお話しいただいた。戦争劇を子どもたちとすることによって、時間をかけて共に平和について考えられるということ、実際に演じることによって子どもたちが真剣に「平和とは何か」を考えられることなど、多くのメリットがある。また、子どもたちがしっかりと劇に向き合えるための4月からの準備、脚本をどう形にしていくか、オーディションのポイント、「劇から芝居へ」の移行、そして、どのように完成へと持っていくかという、具体的な取り組みについてもお話しいただいた。



#### 2. 理論研修会の成果

39名が参加し、「劇を通して、平和について子どもたちとどのように考えていくかを学ぶ、とても有意義な研修だった。」「戦争劇に取り組む意義、指導者側の意識の持ち方など、ためになるお話ばかりだった。」「戦争に関わる貴重な資料を見ること触れることができ、貴重な経験ができた。」「と、大変好評であった。今回展示された貴重な資料については、今後、管内の教員が授業に活用できるよう準備を進めている。参加者の多くが、平和教育の大切さを再確認すると同時に、平和教育を特別なものとしてではなく、日常の授業と同様に、より身近に感じ、積極的に取り組んでいこうという意識を高める機会となった。

### Ⅳ. 部会研究の成果と課題

#### 1. 成果

- （1）石教研課題部会研究協議会は教師の実践の交流・情報交換ができ、とても貴重な時間となっている。
- （2）小中での人権・平和教育の在り方を交流できるととても貴重な機会となっている。
- （3）私たちが正しい情報を得て学び合い、その情報を子どもたちに伝えることで、子どもたちの知識や理解が深まり、適切な判断力につながった。
- （4）各部員の問題意識が高いため、レポートの本数が多く、内容が多様で充実している。
- （5）講師の方のご協力により、理論研修会が充実したものとなった。
- （6）役員研修会などを事前に開催し、部会役員と司会・記録者が話し合い、討議の内容と分科会の進め方を明確にしたり、焦点化したりすることで、活発な議論が行われた。

#### 2. 課題

- （1）内容がマンネリ化しないよう、子どもの実態や特性等に合わせて実践を進める。
- （2）実践が単発に終わってしまうのではなく、系統立てて継続的に行う。
- （3）多くの学校で平和教育を教育課程や道徳に位置付けたり、平和集会など全校的な活動を行ったりできるように、条件整備を進めるための手立てを共有していく。
- （4）様々な場面で「共に生き、平和な社会を創り上げる力」を育むために、個人で実践を行うのではなく、職場内の共通理解・協働体制で実践を積み上げていく。
- （5）私たちが色々な情報に対して知識や理解を深め、子どもたちに伝えていくことが大切である。
- （6）平和教育においては、戦争の恐ろしさや悲しさを伝えるだけでなく、どう生きるのか批判力をどう育てるのかを観点においた実践も深めていくことが大切である。

（文責 稲尾）